

講義目的・到達目標

科学としての社会福祉と科学的な文章の書き方

科学とは何かを理解し、さらになぜ社会福祉学が、他の学問分野の学問的成果を必要とする学際科学・複合的科学の性格をもつのかを理解する。科学的なテキストとは何か、どのような種類があるのか、レポートとは何なのかを明確にし、理解する。レポートや仕事文・実践記録などを科学的な文章にするために要求される条件は何なのかという基礎知識を修得する。

研究の基本的過程と結果報告書の作成原則

調査・研究の基本的過程と構造を理解する。研究問題策定の仕方、問題策定に必要な不可欠な先行研究を読み込むことがなぜ重要なのかを理解する、必要な先行研究の検索、選択の仕方や読み方、調査結果をまとめる報告書(レポート)の構造立てと要求される作成原則や留意点は何かという基礎知識を習得する。

講義の構成

講義の流れ

まず、講義の目的と目標を明確にし、講義の進め方を確認する。序論として社会福祉学がなぜ学際科学であるのかを考える。次に科学的な文章とは何か、そのひとつであるレポートの特徴を明確にする。科学的な文章にするために必要な「事実」と「意見」の違い、その書き分け方を学ぶ。レポート形式と呼ばれる答案用紙の書き方も取り上げる。次に、調査・研究の基本的過程を学び、問題策定に必要な先行研究の検索、選択、読み方、要約レポートの書き方を修得する。最後に、調査結果を報告するレポートの構造立てと作成の仕方や留意点を理解する。

1 講義の目的と目標の設定、講義の進め方

2 学際科学としての社会福祉学

3 科学的な文章とレポート・事実と意見の違いと書き分け方

4 調査・研究の基本的過程

5 問題策定と先行研究の検索、選択、読み方

6 調査結果の報告書・レポートの構造立てと作成の仕方

講義のポイント

知識を暗記するのではなく、批判的検証力を各自が身につけることを重視する。批判的検証に必要な「各自が考える作業」と「根拠ある見解」を生成するために、担当教員が提起する課題についてグループ討議を行い、各グループが発表し、発表結果を担当教員が整理し、理論化する方法をとる。したがって、履修者の積極的な授業参加が要求される。この科目の主な目的は、「論文作成基礎I・II」の導入科目として設定されており、論文計画書作成のための基礎知識を学ぶことにある。もう一つの目的は、調査・研究のためだけではなく、実践の理論化や批判的検証の仕方を学ぶことにある。したがって、実践記録の書き方などのゲスト講義を実施する。

受講するにあたって

①事前学習の  
すすめ

仕事文や試験課題について答案を書くときの自分の文章の書き方を振り返り、自分の苦手な点を整理する。科学的な文章を作成するにあたって、どのような知識が不足しているかを明確にしておくこと。入門であるが、単なる単位修得だけが目的の受講は控えてほしい。

②参考図書

訓覇法子・川床憲一『社会福祉調査論』日本福祉大学通信教育部テキスト

③評価基準

グループ討議への積極的参加を評価に加える。講義2日目の終わりに、1時間の筆記試験を実施する(持ち込み不可)。評価は、講義内容の正確な理解力と批判的検証による考察力を重視する。

④より学びを  
深めるために

2日間の講義では十分内容を理解することは難しいために、担当教員が適切であると考えられる参考文献を指定し、資料を配付する。自分の理解が正しかったかどうか確かめるために必読すること。